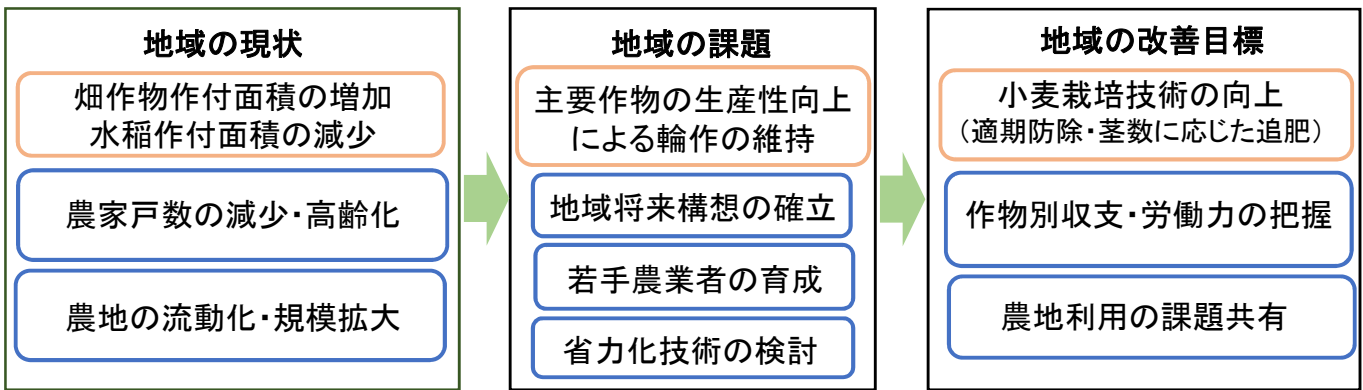


# 土地生産性の維持による農業の確立

～次世代へつなげる農業つながる地域～ 活動対象：剣淵町東町南地区（28戸）

当地域では水稲の作付減少により畑作品目への転換が増えている。輪作体系を維持する上で重要な秋まき小麦について、生産性向上に必要な栽培技術項目の実践を働きかけた。試験ほ場での現地研修会で情報共有し、こまめな戸別巡回、FAX情報などを発信した結果、前年度と比較し技術項目を実践する農家が増えた。将来構想確立に向けた作物別収支および労働力の把握のため、若手農業者対象の経営学習会を開催し、個別の簿記学習も支援した。また、地域の先輩農業者も巻き込み、地域的な取り組みにつなげた。この他、地域の将来構想を考えるため耕地図を共有し課題検討した他、水稲面積の維持に向けた省力化技術についても試験を設置、研修会で共有した結果、各戸で導入の検討が行われた。

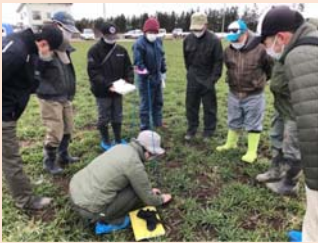
## 1 課題の背景



## 2 活動の経過

### ◎主要作物の生産性向上

秋まき小麦の技術改善7項目の実践を提案！  
(目標：6項目実施農家4戸)



起生期の施肥研修会



施肥試験の実証ほ設置

この長さ(約30cm)分、茎数を数えましょう！

このほ場の生育状況

このほ場の生育状況

このほ場の生育状況

調査日	12/26	1/9	1/23	2/6	2/20	3/6	3/20
1. 10m <sup>2</sup> あたり(約30cm)の生育状況	12/26	1/9	1/23	2/6	2/20	3/6	3/20
2. 10m <sup>2</sup> あたり(約30cm)の生育状況	12/26	1/9	1/23	2/6	2/20	3/6	3/20
3. 10m <sup>2</sup> あたり(約30cm)の生育状況	12/26	1/9	1/23	2/6	2/20	3/6	3/20

茎数に応じた追肥の呼びかけ(早見表)



止葉期防除の巡回

### ◎地域将来構想の確立

作物別収支・労働力の把握を提案  
(若手6名対象)



けんぶち簿記クラブ・農民連盟の協力により経営勉強会を開催

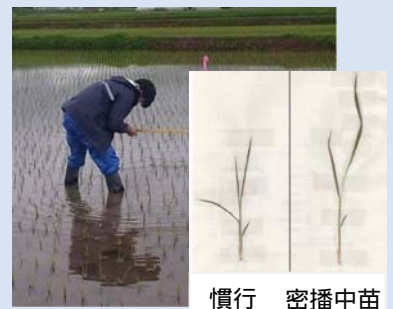
作物別収支の前に  
まず簿記から勉強したい！

農地利用の課題を共有



地域の現状と課題を整理

省力化技術を検討



省力化技術の実証(水稲・高密度は種)

慣行 密播中苗

### 3 活動の成果

#### ◎主要作物の生産性向上

○ 追肥管理の違いが生育に影響することを実証



成熟期研修会

施肥時期を変えただけで倒伏程度が違うね

防除をしっかりすると葉がまだ枯れないんだな

○ 秋まき小麦の技術改善項目の実施(3戸が達成)

技術改善項目(R2年産→R3年産)

葉枯症防除		適正な施肥管理
止葉期	開花期	
5戸→12戸	4戸→13戸	3戸→5戸

7項目中6項目達成  
2戸→3戸



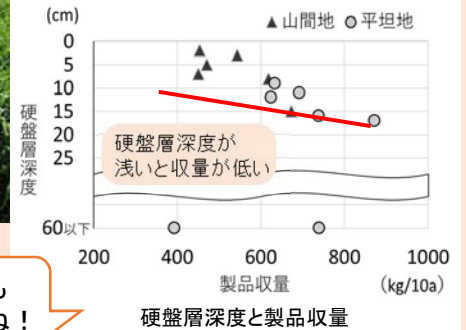
6項目達成農家が高収量！  
地区平均は町平均比109.5%に！

○ 令和4年産に向けて

土壤硬度が収量に影響していることが判明



小麦ほ場の状態は？  
土の硬さと収量の関係は…



土壤の物理性も改善が必要だね！

適期は種・適正は種量もちゃんとやっていきましょう

農業者の意識は…

雨で適期に播けなかったからは種量を調整したよ

もっと上手に緑肥を活用していきたいな！



#### ◎地域将来構想の確立

○ 作物別収支および労働力の把握

経営学習会の後に、習熟度に応じた個別学習支援



経営移譲のタイミングで始められてよかった！

学習会が農連に行くきっかけになったよ

6名のうち実施できたのは2名

未実施農家



作物別収支ってみんな同じじゃないの？

じゃあ地域の先輩も巻き込んで比べてみましょう！



各戸データの比較・共有により技術の検証、経営計画(構想)の必要性を共有

○ 農地利用の課題共有

耕地図を見ながら検討(全体検討会開催1回)

土地の動きが大きいなあ

現実を見ると結構大変かも



○ 省力化技術の検討

(高密度は種現地研修会)



高密度は種栽培  
来年試験的に導入してみようかな

自分の経営に必要な技術かの判断材料になるね

### 4 今後の課題

秋まき小麦の適正な茎数管理及び土壤物理性の改善  
作物別収支の把握及び経営シミュレーション、労働力の把握  
農地利用の課題共有